キャラクター名
旭　早姫（アサヒ　サキ）

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー エグザイル	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	定時制学生
オプショナル		年齢	17だったかなぁ	性別	女だと思うよぅ
覚醒	探求	衝動	自傷	初期侵食率	30　%
出自	義理の両親	経験	記憶喪失	邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	3			7
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	35
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
赫き剣	白兵	7r+1	0			『赫き剣』使用時 攻撃力→[消費したHP+8]点
真なる痕跡	白兵	6r+1		12		100%未満　5+6　装甲無視　命中時4点回復
不在なりし、ワタシの「」	白兵	7r+1		14		100%以上　5+6　装甲無視　命中時8点回復

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ:噂好きの友人	
コネ:UGN幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
義理の親	P 幸福感	N 不信感		
ベルンハルト・カノープス	P 憧憬	N 憐憫		
伊庭宗一	P 親近感	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　4	残り財産P：　4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト：ブラムストーカー	2	2	メジャー	ー	ー	―	ー	
効果：クリティカル値を―Lvする								
赫き剣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：[Lv×2]以下消費、武器データ参照								
渇きの主	1	4	メジャー	至近	単体	白兵／対決	ー	
効果：装甲無視、命中時[Lv×4]点回復								
伸縮腕	2	2	メジャー	視界	ー	白兵／対決	ー	
効果：射程を視界に変更、ダイスを[3－Lv]個								
封印の呪	1	2	メジャー	視界	―	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ／対決	ー	
効果：命中時次回クリティカル値+1　シナリオLv回								
かしずく歯車	★							
効果：「ゆるっと生きていくためだよぅ」								
環境適応	★							
効果：「現代に生きる吸血鬼さまだからねぇ」								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「旭　早姫だよぅ」「よーろしくねぇ」
1per:ワタシ　2per:キミ
□□□□□□□□□□□
　普段からゆるゆる適当な脱力系高校生。掴みどころのない性格でのんべんだらりとしており、口調もどこかへらっとしている。中性的な顔と体格をしている事からか、日によって男子制服と女子制服を適当に着分ける意味の分からない存在。どっち扱いされてもいい。一応本人は女性だと認識しているが、男性だと思って扱われる分にも一向に構わない。紛らわしい格好をしているのは自分なので。
　自分がオーヴァードであることを知っている相手にはその異様に白い肌と、発症したシンドロームから「きゅーけつきさまだよぅ」「おどろいたぁ？おどろいてないねぇ」とかいうことを適当に言っている。
　自称、川の下で拾われた子。それより前のことは何も覚えていない。気にしているようなそぶりもない。覚えていないことを掘り下げても意味ないじゃん？と言うのが彼女の主張。
　現在は自身がオーヴァードであることを知らない両親にゆるっと育てられている。エージェントとしての活動は報酬が出ることから「単発バイトだよぅ」などと言ってごまかしているらしい。定時制高校なので昼間の活動に対して割と自由が利くのもある。
「一応これ以上の迷惑はかけたくないしねぇ」
「ケガしてもバイトで～ってなるじゃん？便利だよぅこの設定。ま、きゅーけつきさまだからすぐ治っちゃうんだけどねぇ」

「あーはは、ワタシ何者なんでしょーねぇ。し～らない」
「だってねぇ、この現代日本に吸血鬼なんて不釣り合いじゃないか」
　彼女はへらへらとした振る舞いの向こうに自分の存在を探している。適当ではあるから感じ取れないものの、知らないということは彼女の中で恐怖になる。レネゲイドビーイングですら自分の出自を理解しているというのに、自分はいったい何者なのかわからない。多分人間なんだと、思いたい、けれど。
　自分が何者なのかわからない、それは人間であるのだろうか。わからないから歩き続けるのが、探し続けるのが人間とはいうけれど、それはあくまで自分が人間であるということがわかっている前提。それすらわからない、そしてもう真っ当な人間でいられない自分は、一体。
　何にもなれなくて、誰とも仲間だと思えない。ああ、なんだかこう。物語の主人公みたいな数奇さだ。ワタシは決して主人公のような明るさも前向きさも特大